

第12回友の会総会が開催されました

＝活動報告、活動計画、予算など原案通りに可決＝

4月20日(土)午後2時から第12回葛飾図書館友の会総会が中央図書館で開催されました。

朝野友の会会長の挨拶と、この4月から就任された尾形中央図書館新館長の祝辞をいただき、議長の選出と議案の審議に入りました。

まず各委員長から「平成30年度活動報告」が行われ、「平成30年度収支報告」及び「平成30年度会計監査報告」とともに拍手多数で承認されました。

今総会において「会則の一部改訂」が朝野会長によって提案され、「設立以来10年以上も経過した結果、現状に合わない部分がある。委員会という名称が、加入を考えている人や新加入者にとって意識の壁になるなどの声もある。気軽に活動がスタートできるようにとの検討を行い、改訂を提案する」と説明しました。そして質疑応答に入りました。



多読クラブの設置や会則の改訂も承認



提案された主な改訂部分は、会の目的と活動内容を実態に合わせ「ボランティア活動を通して区内図書館を支援、生涯学習の機会を自主的に創造し、ともに学ぶこと」とすること、これまでの会則の活動の第1を図書館への協力にしてきたが、図書館が所蔵する資料を利用とすること、また会計監査を2名から若干名にすること、委員会名をグループなどに、また委員長をリーダーへと名称の変更を可能にすること」などです。

参加者から「これまで友の会とは別に図書館でボランティア活動をしているが、会の活動として行っても問題ないか？」との質問があり、「会則に明記されている通り、役員会で承認されれば友の会活動になる」との説明がありました。そして印刷物や資料などの文言整理を役員会に一任してほしいとの追加説明ののち、原案通り承認されました。

多読クラブ(多読委員会から改称)のリーダーを石原恵美さんにするとの議案も拍手で承認されました。

そして「2019年度活動計画(案)」が各グループのリーダー(名称を変更した委員会は児童サービス応援委員会が「おはなしくらぶ」に、CD・DVDコンサート委員会が「CD・DVDコンサートクラブ」に)から趣旨説明が行われました。新たに多読クラブが「親子英語よみきかせ講座」を年4回の予定で開催するとの計画を含め、原案通り拍手で確認されました。

最後に会計から「2019年度予算(案)」が提案され、「収入はほぼ前年規模を見込んでいるが、諸経費が年々増加し、単年度の収支では赤字になる危険性がある。経費の削減や会員の増強による収入増を図る必要がある」との説明のあと、承認され閉会しました。

閉会後は、ライブラリーカフェを開催し、5時過ぎに終了しました。(次ページ参照)

総会終了後、恒例の講演会&ライブラリーカフェを開催

■「市民のための図書館～古代の図書館からネット社会まで～」(朝野会長による講演)

総会終了後、恒例の会長による講演会が開催され「ライブラリーカフェ」での統一論題が提供されました。
(講演概要)

「はじめに古代メソポタミアで文字が生まれた理由を解説しました。図書館の起源はバビロニアとアッシリア



にあります。さらに時代は下ってボストンの公立図書館を紹介しました。市民の生涯学習のための図書館のはじまりです。本講演では書籍がいかに文明の発展に貢献してきたかを語りました。ネット社会の今日、市民の図書館を守るために私たちが



ができることは何かを考えるきっかけにいただければ幸いです。」

講演：朝野熙彦（元都立大学教授、友の会会長）

■ 飲み物を手になごやか語り合った「ライブラリーカフェ」

講演会后、参加者は4つのグループに分かれて「市民のための図書館」というテーマで話し合いを持ちました。

図書館のあり方、そして図書館のために私たちができることは何だろうかについて、友の会提供のお茶やジュースを手にしたがの和やかなひととき。最後に各グループでの話を発表しあって、カフェは終了となりました。これからの友の会の活動に糧となる大変有意義なイベントでした。



朝野友の会会長 特別講演会報告

あこがれの印税生活 ～自分の本を出版するまで 【熱心な参加者から多岐にわたる質問が…】

葛飾図書館友の会主催のイベントとして、2月24日(日)午後2時～3時半に中央図書館会議室1で表記の講演会が開かれました。

全国の書店数および書籍販売額は過去10年少々の間に3割近くも減ってしまいました。このような出版不況の中で、出版社が新刊書の発行に踏み切るためには、説得性のある出版企画書を著者が用意する必要があります。書式や体裁が問題なのではありません。講演会では一般書店に並ぶ本をこれまで30冊以上執筆してきた講演者の経験をもとに、出版企画の本質を解説しました。

また出版といっても自費出版を目指しているわけではありません。そこで、出版社との印税の取り決めや納税の仕組みなど、お金にかかわる問題も解説しました。

講演会には本が好きで、いずれ自分も本を出版したいとお考えの方々に多数ご参加いただきました。講演後には分担執筆の場合の印税の扱い、盗作疑惑をもたれな

いたための他人の著作からの引用法など、真剣なご質問を頂戴しました。今回の講演会の参加者の中から、いずれ出版界に著者デビューする方が出てこれるものと期待しています。今回のような実用的なテーマをかかげた講演会をこれからも開催していきたいと思

講演：朝野熙彦（元都立大学教授、友の会会長）

本のお掃除隊 亀有図書館にも出動

児童室で絵本の扉と裏表紙を拭き、新本(?)に



これまで原則として毎月第3土曜日の午後1時から3時まで中央図書館フロアで作業機を出して入会受付と書籍の清掃作業を行ってきました。現在の友の会の活動がほぼ金町の中央図書館に限定されているという課題があり、友の会の存在を知ってもらうことや中央図書館以外でも出来る活動をしたいとの要望を中央図書館を通して行いました。早速、亀有図書館から来館者の少ない時間帯の午後1時から3時ごろまで児童室内での本の清掃をとの依頼がありました。

そこでまず試験的に2月15日(金)午後1時30分から同図書館児童室で絵本の“拭き掃除”を行いました。「たんしん」やメールでの呼びかけに亀有や宝町、青戸、立石や金町から5名の会員が参加しました。都営住宅の1階にある図書館の児童室でオレンジのエプロンを着用し本にスプレーを吹き付けて拭く作業。職員の方が書棚からラックに移し運ばれてきた絵本は予想以上の汚れなのか、早々に白いタオルが茶色っぽくなりました。絵本たちにとっては生まれて初めて顔と背中をキレイにもらったのでは・・・。

約2時間あまりの短時間の力作業でしたが、館員の方によると約500冊近い清掃だったとのことでした。3月15日(金)にも同様な作業を行い、6名の参加がありました。今後、中央図書館の作業との兼ね合いを考慮しながら継続していく予定です。

パルフェスタで「おはなしくらぶ」が活躍、会場はいっぱい！

“ちょっと変わった絵本”や手遊び、素話などを披露

「考えよう！ みんな生きやすくなるために」をスローガンに、立石にある葛飾区男女平等推進センター（ウィメンズパル）で3月2日(土)『パルフェスタ2019』が開催されました。

友の会の児童サービス応援委員会の「おはなしくらぶ」がこのフェスタへの参加を要請され、午前と午後の2回、大型を含む絵本の読み聞かせや素話、紙芝居、わらべ歌や手遊びなどを披露しました。

3階の和室が「おはなしのへや」になって、20数畳ある部屋は靴を脱いだ1歳前後の幼児を中心に、子どもたち、そして家族や大人たちが、始まる前から多数集まり満員に。まず参加者全員で“はじまるよ”の手遊びからスタート。会員らのレクチュアがうまいのか、子どもたちの表情には楽しさが、部屋には笑い声が溢れ、プログラムが進んでいきます。

今年のおはなし会のテーマは「ちょっと変わった絵本もあるよ！」。《おんなのこなんて だいきらい だってさ・・・》の次に《おとこのこなんて だいきらい だってね・・・》の絵本読み。男女平等推進センターでのおはなし会色を出して、ジェンダー・フリー（従来の固定的な性別による役割分担にとらわれず、男女が平等に、自らの能力を生かして自由に行動・生活できること）を考える絵本を多く組み込んでの読み聞かせ。

午前の部は約40分のプログラムでしたが、大人を含め60名近くの来場者が所狭しと座り、演者のすぐ前を子どもたちが囲むという大盛況ぶり。特に手遊びがとても好評のように見受けられました。午後の部も30名近くが来場しました。



中央図書館 区民の本棚に『キーワード読書会の本』を展示



2ヶ月に一度木曜の夜に定期的で開催している広報委員会主催の友の会の読書会。各回キーワードを決め、それに関連する本を持参して紹介し合っています。この読書会のキーワードと本のリストをもとに中央図書館区民の本棚コーナーに特集展示『キーワード読書会の本』を企画しました。初回のキーワードは2016年9月に行った第40回の『あるく』。

『ウォークスー歩くことのできる精神史』、『ちひろと歩く信州』、『四千万歩の男』、『旅する巨人』、『聖地巡礼』、『あるく魚とわらう風』などキーワードから連想されるいろいろなジャンルの本を選びました。なかなか自分からは手に取らない本に接する機会になる展示を目指して、定期的に特集展示を行う予定です。

この展示コーナーにはこれまで開催した54回分のキーワード読書会のブックリストも設置してあります。

「利用者の拡大、特に YA 層への働きかけに努力したい」

5月16日（木）午後4時から中央図書館に着任された尾形保男新館長に、広報委員会のスタッフがお話をお聞きしました。最初に前職を伺ったところ都市整備部高砂・鉄道立体担当課課長とのことで、皆で葛飾区の踏切や高架事業についての問題点などについて、インタビューなのに熱く語り合っていました。

今まで区の図書館を利用されたことはありますかという問いには、即座に葛飾区立図書館利用カードを取り出してくださいました。四つ木近辺にお住まいとのことで、主な利用はお花茶屋図書館だったとのこと。

次に図書館に着任して感じたことをお聞きすると、資料に基づき数字で現状を語られ、これらの分析をもとに図書館の利用者拡大に努力していきたい、特に YA 層へ働きかけていきたいとの抱負を語っていただきました。区の事業として読書活動を豊かにする絵本や本を図書館でプレゼントするという3歳児むけのセカンドブック事業や小・中学生向けのかつしかっ子ブック事業について詳しく説明していただきました。

友の会との協働については、広報課に長く在籍されていた経験から PR のやり方や他団体とのイベントのノウハウなどの助言をいただきました。

最後に趣味についてお聞きしたところ、電動ラジコン（オンロード）や、リードギターとボーカルのバンド活動、富士山登山、犬の散歩などと多岐に渡り、特に音楽の話ではディーブ・パープルからクラシックへ道を熱く語っていただきました。どんな話題にも臨機応変なお答えでインタビューは1時間を越えてしまいました。

友の会より友の会担当職員の方々の協力への感謝を館長にお伝えして取材を終えました。

（広報委員長 阿部）



☆☆☆☆☆ 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！ ☆☆☆☆☆

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会ください。あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？ 原則として第3土曜日の午後1時から3時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員1,000円、賛助会員は1口2,000円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を右記の口座に納入してください。図書館

ゆうちょ銀行 口座番号 00100-7-392065

口座名称 葛飾図書館友の会

での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、2019年度年会費をご記入下さい。また1口500円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では200円、ATMからでは150円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。

入会届はHP (<https://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

お問い合わせ先：中央図書館友の会担当者（打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん、盛さん）Tel 03-3607-9201

▼「教練」という言葉を知っている人も少なくなってきたと思うが、その意味は「学校で行う軍事に関する教育や訓練。軍事教練」という。戦前、小学校（国民学校）生徒もその対象であった。学童疎開で千葉の小学校に転校して、都会での呑気な体操の時間がなんと竹槍銃剣術や匍匐前進などの物騒な「教練」に代わって仰天した▼土地の子は慣れているので陽気に時間を過ごすのが、のろろ動く青白い疎開組の子はほとんど泣かされ、殴られた。私は幸い中耳の病気があって殴られないがアメリカ軍の上陸を防ぐ石運びをやらされた▼空襲警報で急の集団下校時、戦闘機の機銃掃射を受け銃弾が横を走ったとき、アメリカ兵の笑い顔が目に入ったのが忘れられない。日本が突入した恐ろしい大戦は天皇が「参った」と言わない限り、終わらなかつた。「不戦の誓い」は日本国民共有の資産であろう▼さいわい図書館には日本国民が体験した戦争の記録をはじめ、古代の馬、象、船、近代の軍艦、飛行機そして核爆弾に至る記録や研究、論説、関連する政治についての資料がたくさんある▼数年前、区内の学校でいわゆる「戦争体験」を語る機会があり、かわいい男女の高校生に前述の体験を話して大いに共感を得た。若い人達が武器で戦う戦争の恐ろしさを少しでも知識として得られるよう努力を続けたい。

（高橋広報委員）

色えんぴつ